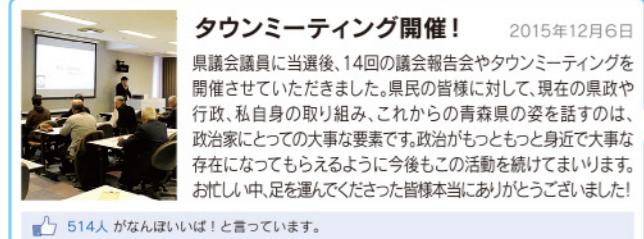
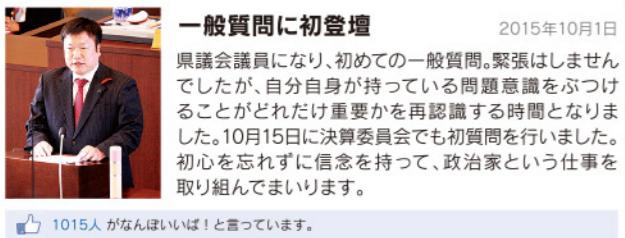




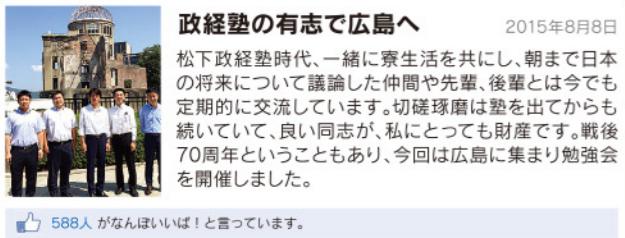
現在



**タウンミーティング開催!** 2015年12月6日  
県議会議員に当選後、14回の議会報告会やタウンミーティングを開催させていただきました。県民の皆様に対して、現在の県政や行政、私自身の取り組み、これからのお青森県の姿を話すのは、政治家にとっての大事な要素です。政治がもっと身近で大事な存在になってもらえるように今後もこの活動を続けてまいります。お忙しい中、足を運んでくださった皆様本当にありがとうございました!



**一般質問に初登壇** 2015年10月1日  
県議会議員になり、初めての一般質問。緊張はしませんでしたが、自分自身が持っている問題意識をぶつけることがどれだけ重要なかを再認識する時間となりました。10月15日に決算委員会でも初質問を行いました。初心を忘れずに信念を持って、政治家という仕事を取り組んでまいります。



**政経塾の有志で広島へ** 2015年8月8日  
松下政経塾時代、一緒に寮生活を共にし、朝まで日本の将来について議論した仲間や先輩、後輩とは今でも定期的に交流しています。切磋琢磨は塾を出てからも続いている、良い同志が、私にとっても財産です。戦後70周年ということもあり、今回は広島に集まり勉強会を開催しました。



**地方創生の祭典  
「まちてん」に参加!**

渋谷のヒカリエで行われた地方創生に関する祭典「まちてん」に参加しました。松下政経塾の出身者として、さらには地方政治に携わる人間としても興味深いテーマでした。全国各地の民間の取組を中心に集まつた方々とも懇親を深め、新たなつながりも出来ました。日本全国で民間として何とかしようとする方々はやっぱり熱い人はばかりです!



**弘前アレックスの全国大会を解説**

2015年9月4日  
市民球団・弘前アレックスを応援するために、2年ぶり2度目の西武ドームへ! 対戦相手は欽ちゃん球団として有名な「茨城ゴールデンゴルズ」でした。結果は、中盤以降引き離されてコールド負け。実力の差を実感していました。野球を解説席から見るようになって4年。野球の違った面白さを発見中です!

これ以前の記事を表示

## 読書コーナー



Book

### 「ロングテール」

クリス・アンダーソン 著 発行元:ハヤカワ文庫

Amazonと言えば知らない人がいない位有名な会社です。Googleやfacebookは4年前位までは、あまり使われていませんでしたが、現在では世界中の皆さんに使われているIT企業となりました。しかし、この3つの企業が最初から大きかったわけではありません。そのアイディアの根底には、共通する「ロングテール(長いしっぽ)」や「Web2.0」という考え方があります。この本の中で、「ロングテール」とは、ニッチな産業の集積が大企業の売上を越えていくという考え方として紹介されています。そして、この本と出会い、ドキッとした瞬間。考え方を変えれば、青森県は地方都市で、大きな企業はありませんが、素材はたくさんあります。これをうまく活かして集めていけば、大きな企業にも大きな都市にも勝るということです。「ロングテール」の考え方にはそんな可能性が詰まっています。是非、ご覧ください!



青森県議会議員 菊池いさお

〒036-8092 青森県弘前市城東北1丁目1-25 トレニアビル1階  
TEL 0172-27-5145 FAX 0172-27-5146  
E-mail kikuchi130.office@gmail.com  
URL http://aomori130.com/

いさおの議会日記、県政や県議会へのご意見・ご要望など、お気軽に寄せください。

ツイッターと  
facebookでも  
**活動紹介中!!**

◎ツイッター 菊池いさお(@kikuchi\_isao)  
◎Facebook http://www.facebook.com/aomori130

日本人らしく、つつましく、節度を保ち、清らかな心の通う人々で賑わうまちを目指したい

# いさおの議会日記 in 青森



定例会会議録、県外調査のご報告  
読書コーナーのご案内、isaobook

KIKUCHI ISAO  
CONGRESS DIARY  
**Vol.09**

2016.02

## ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。青森県議会議員の菊池勲です。2016年を迎えて早いもので1か月が経ちました。雪が少ないと言われる冬を皆様はいかがお過ごしでしょうか?

昨年はたくさんの方のご協力のお陰で、**県議会という新たなチャンス**をいただきました。県内市町村を回る機会が増え、人口減少やそれに伴う後継者不足や担い手不足が叫ばれている昨今において、それを肌で感じ、**岐路に立っていることを痛感**する機会が増えました。同時に他にはない県内の魅力を発見し、青森県をなんとかしようと努力されている方々と**出会う機会も増えました**。そうした中、昨年一年間、私の中で大きくなるのは危機感であり、何とかしていかなければいけないという使命感でした。

私はこの岐路に立つ時代にこそ、政治に携わる人間が質を高め努力し、行政との緊張感を持ちあうことが必要だと思います。そして、知恵を出し合いながら青森県の将来を描き、困難に立ち向かう強い信念を持ち続けることが肝心だと考えています。

明治維新の大きな原動力となった吉田松陰の和歌に次のようなものがあります。

**「親思ふ こころにまさる 親こころ けふの音つれ 何ときくらん」**

「子供が親を思う以上に、親は子供を大事に思っているのだ。」と表現した和歌です。この言葉の通りにリーダーや経営者は、どんな時代でもあって**次の時代や子供達のことを考えること**を大事にし、取り組む必要があります。私達が今存在するのは、親がいるからこそあり、先人の努力によるものです。それと同時に次の時代のために、今を精一杯努力し、よりよい未来を築いていく必要があります。自分さえよければいいというだけでは、次の時代は作られていません。リーダーがこういった志を持って取り組むことが出来れば、必ず青森県に道は拓けてくると確信しています。

今年も変わらず謙虚に積極的に歩んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

菊池 勲、

## きくち いさお 菊池 勲 プロフィール

昭和56年5月22日生まれ・弘前市出身 A型 双子座  
弘前市立東小学校・東中学校卒・弘前高校卒(硬式野球部所属)  
東北大学理学部卒・(公財)松下政経塾27期生(青森県初)  
「若者の夢をサポートする会社」で企業経営に従事  
2011年4月弘前市議会議員初当選 2432票  
2015年4月青森県議会議員選挙初当選 8561票  
総務企画常任委員会所属、議会改革検討委員会所属  
新幹線・鉄道問題対策特別委員会所属、東日本大震災対策特別委員会所属





# 定例会会議録

Regular meeting proceedings

## 平成27年9月定例会一般質問『人口減少問題について』

### 菊池：質問

まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略及びまち・ひと・しごと創生青森県長期人口ビジョンについて、

Q 長期人口ビジョンで示される持続可能で安定的な人口構造を実現するために、どのような形でこれらを進めるのでしょうか？

Q 総合戦略の実効性は、どのように検証を行っていきますか？

### 三村知事：答弁

人口減少という課題について、まち・ひと・しごと創生青森県長期人口ビジョンでは、本県の人口の現状を分析し、人口減少を克服するための取り組みの方向を示しております。その方向に沿って対策を確実に進めいくことにより、西暦2080年以降、持続可能で安定した人口構造を実現できるという推計になっています。中長期的視点を持ちながら、まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略に掲げる今後5年間の政策、施策を着実に進め、その結果をしっかりと検証し、以後の取り組みに的確に反映していくことが大切であると考えております。

### 企画政策部長：答弁

まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略では、政策について重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルを運用することとしております。このPDCAサイクルは、青森県基本計画未来を変える挑戦におけるマネジメント・サイクルを一体的に運用し、青森県総合計画審議会による検証も実施しながら、実効性を確保することとしています。今後、総合戦略に掲げる基本目標及び重要業績評価指標(KPI)の毎年度の数値の確定時期などを踏まえながら、基本計画のマネジメントサイクルによる政策、施策の自己点検や青森県総合計画審議会による検証と結果の公表などにあわせて、総合戦略に係る検証も適切に行い、以後の取り組みに生かしていきたいと考えております。

### 菊池：再質問

人口減少、また、地域総合戦略について、第1回目の5年間の進捗管理または進行計画が非常に重要であると思います。

地方創生に関して、青森県では、行政主導で、民間はまだ後ろ向きであるように思います。青森県も民間と連携し、オール青森体制でこの計画を進化させていく必要があると思いますが、それについてどのようなお考えでしょうか？

### 企画政策部長：再答弁

人口減少対策は、県民一人ひとりを初め、企業、団体、市町村などのあらゆる主体において基本認識を共有し、相互に連携協力しながら進めていくことが重要であり、先般作成いたしましたまち・ひと・しごと創生青森県総合戦略において、県は、人材・技術・資金などさまざまな面において民間の活力やアイデアを積極的に活用していくこととしております。

移住促進に当たりましても、官民連携を図って一層強力に取り組みを進めていくことが重要であることから、県としてはその組織体制として、現在、県内の全市町村と県で構成する青森移住交流推進協議会を有効に活用していきたいと考えております。

年内に開催を予定しているこの協議会において、新たに民間も加入出来るよう組織拡充を提案していくこととしておりまして、その協議会での決定を踏まえ、市町村と連携しながら、県内の民間各層に対して移住促進に向けた取り組みへの積極的な参加を働きかけていきたいと考えておりますし、また、民間のほうでも、金融機関等人口減少に対する危機意識が高まっておりまして、その素地も次第に整っているのではないかと考えております。

## 平成27年9月定例会一般質問『短命県返上について』

### 菊池：質問

短命県返上に向けての取り組みについてです。

(1)短命県返上のため健康づくりを進めるべきと考えますが、県はどのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

(2)健康づくりを進める上で、本県の健康課題をどのように捉えているかお伺いいたします。

(3)健康課題の改善に向けてどのように取り組んでいるかについてお伺いいたします。

### 三村知事：答弁

健康で長生きな青森県の実現に向けて、県民の力を結集し、健やかに生きていくための力である健やか力の向上に取り組むことが重要であると考え、健康づくり運動を進めていきたいところであります。

現在では、市町村のほか、企業においても健康宣言が行われるなど、県の全域で健康づくりに関する気運が大いに高まっているものと実感するところでございます。今後は、この気運を捉え、県民一人一人の健康づくりの実践に着実につなげていきたいと考えております。

また、県民が一丸となって健康長寿の青森県を目指すため、特に全国との差が顕著になっております働き盛り世代の死亡率の改善、要するに40代、50代対策ということになりますが、この改善に向けて、市町村や関係機関、関係団体等と連携協働し、地域及び職域における健康リーダーの育成や、働き盛り世代を中心とした健康づくりに重点的に取り組みたいと考えております。

今後も、健康で長生きな青森県の実現に向けて、未来は変えることが出来ると信じ、積極果敢な取り組みを推進する所存であります。

### 8 健康福祉部長：答弁

青森県は、平均寿命が年々伸びてきているものの全国最下位となっており、多くの健康課題があります。特に全国との差が顕著になっている働き盛り世代である40歳代、50歳代の死亡率を減らすことが課題です。さらに、本県の死亡率の約3割を占めるがんについて、その実態を踏まえた戦略的ながん対策の推進が必要です。そのため弘前大学に開設した寄附講座「地域がん疫学講座」から、平成26年10月に、本県のがん罹患率は全国平均並であるにもかかわらず、死亡率が高く、その原因として早期発見が少ないとともに、がんとの因果関係が明らかになっている喫煙防止やがん検診の受診率向上は必要との提言がありました。喫煙防止対策やがん検診受診の向上については重点的に取り組むべき喫緊の課題であると考えております。

次に健康課題の改善に向けた取り組みについてです。働き盛り世代への対策については、県医師会に設置された健やか力推進センターに委託し、企業、団体などにおける健康づくりを牽引するリーダーの養成を行っています。喫煙防止対策については、特に若い世代での喫煙者を減らすため、全国でも珍しい取り組みとして、保険者と企業が連携して、健康保険適用外となる若い世代に対する禁煙治療費の助成や禁煙を継続できるようにサポート体制を構築し、禁煙支援をより強化することとしています。また、受動喫煙防止対策をより一層促進するため、9月1日から、健康福祉部が青森市内で開催する会議等の会場は受動喫煙防止を実施する施設を優先する取り組みも始めました。さらに、がん検診受診率の向上を図るため、受診者数が増加した市町村に対する支援や、未受診者への受診推奨、再推奨を専門的に行うコール・リコールセンターを設置するモデル事業を行っております。

### 菊池：再質問

一点だけ再質問させていただきます。

私は、今いろんな政策を行っておりますけれども、やっぱり健康というのは、長く続けていくためにはそれなりのきっかけ、または動機というものが大事になると思います。

そこで、これは国もヘルスポイント制度という形で今政策の中に組み込んでいますけれども、青森県としてもこういったヘルスポイントであつたりマイレージ事業というものをもう少し県として、市町村と連携をして後押ししていく必要があるんじゃないかと思っております。それについてどのようにお考えかお伺いいたします。

### 8 健康福祉部長：再答弁

弘前市ですとかむつ市でもやっておられると思うんですけれども、結局は健診を受けたり運動したりすることに対してポイントを付与する。それは市町村の取り組みとしてそれでいいんだと思いますけれども、それを総括して、市町村全体としてのアウトカムの評価を県としては国民健康保険の特別調整交付金の配分で行なっていくというのが今の我々の考え方です。

もう一つ、別の視点からお話しますと、ポイントの付与ですかいうところは、やはり健康の意識の高い人がやってくるところだと思うんです。我々の問題としては、そこに意識を持っていない人にどのような働きかけをするかというが青森県にとっては非常に大事な事だと私は思っています。

県の重点施策提案でも、国に要望したのは、個人の健康づくりや生活習慣もしくは疾病リスク、タバコを吸っていないとか、運動しているしていない、そういうものを社会保険料に反映させる。いわゆるリスク調整と言われていますけれども、こういった考え方も必要なではないかという観点で提案させていただいて、市町村のヘルスポイント自体を否定するものではありませんけれども、県としては全体の評価の中で行なっていくと考えています。

## 県外調査

Research

### 会派「青和会」での県外調査！



#### 群馬県 及び 神奈川県

2015年8月17～18日

現在、がん対策のための条例制定を行っている地方自治体が半分を超えており、青森県は条例制定がなされずに「行政におけるがん対策」のみがなされているのが現状です。この条例制定により、他県では民間との連携による取り組み強化や、県民にとってより実効性のある計画や、アクションプラン策定を行うなどの効果を分析してきました。



#### 福岡県 及び 山口県

2015年12月21日～23日

福岡県における、がん対策による取り組みと再生可能エネルギーの取り組みについて調査してきました。福岡県は全国47都道府県の中でも、非常に先進的な取り組みをされていました。調査する中で、青森県でも風力発電などの優位性をさらに活かす工夫や、これまで振るわなかつた太陽光発電を活かせるような取り組みのヒントをいただきました。



山口県では、国体前後のスポーツ政策について調査してきました。山口県は国体を開催後も、スポーツ政策に力を入れており、青森県も見習うべき点があつたと考えられます。知事部局での「スポーツ事業の推進」や「地域スポーツ」の定着など、今後国体をむかえようとする青森県にとって大事な調査になりました。

### 総務委員会での県外調査！



#### 奈良県の西大和学園での調査

2015年11月11～13日

「世界一受けたい授業」で紹介された成長中の高校です。先生方の高い意識を感じたのと同時に、私立学校の自助努力とそれに伴う進学率の向上、キャリア教育やキャリア形成に力を入れた生徒指導など、全国3番目と言われる進学校の状況を伺うことが出来ました。



#### 大阪府立体育館の指定管理者制度

2015年11月11～13日

大阪府立体育館は、これまで経営赤字が続き、一旦は「廃止」となる計画まで出されました。しかし、指定管理者の努力と大阪府の条例改正により、民間活力が活かされ、プロスポーツの開催や使用率の向上によって、経営的に黒字となっています。この指定管理者制度の活かし方を青森県でも取り入れたいと思います。



人と防災未来センター

2015年11月11～13日

阪神・淡路大震災を機に作られた「防災についての体験・研究・学習センター」。大震災の記憶が薄れて、次の時代の人方が同じような目に合わないように考えて作られています。東日本大震災も同様に、記憶に残し、次の時代に風化させない仕組みをつくることの大切さを学びました。